

学校名	佐賀市立諸富北小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・学力向上については、国語科中心から他教科へ広げた「授業づくり」について研究を進めることができ、児童の学習意欲や学力向上へとつながった。しかし、自分の考えを表現(説明)することや説明的文章の読解や基礎的内容の活用に課題がある。自分の考えの根拠を明らかにしてまとめた、自信をもって意見を表現したりできる指導法の工夫に取り組んでいきたい。 ・心の教育では、研修会や全校人権教室を実施し、組織的に取り組み、いじめや人権への意識の向上につながった。良好な人間関係を構築させるために、道徳や特別活動の充実、相互のコミュニケーション力を高める取り組みを今後も継続していきたい。 ・地域、保護者との連携については、学校と地域や保護者と連携して、子どもの安全・安心を守ることに取り組むことができた。学校評価アンケートではほとんどの項目で中間評価を上回ることができ、特に「いじめのない学校づくり」については100%の評価をいただいた。学校からの情報発信を工夫して関心を高め、保護者への啓発をより一層進めていきたい。 ・働き方改革については、職員「タイムマネジメント」研修を継続して行うとともに、様々な学校行事の統廃合やデータの整理及び有効活用を進めていくことで、実務的な業務改善を行っていきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	夢をもち ふるさとを大切に思う児童の育成 いい顔であいさつをする子ども いい声をひびかせる子ども いい心をひろげる子ども
----------	---

3 本年度の重点目標	①「学力向上」 校内研究の充実と授業改善 基礎基本の定着と家庭学習の充実 学習用端末の効果的な利用を目指した授業づくり 読書習慣の定着 ②「豊かな心の育成」 一人一人を認める出番づくり 支えあう学級づくり いじめ、差別の防止 ③「特別支援教育」 一人一人の特性を理解した支援 将来の自立と社会参加 ④「地域連携」 諸富中学校区学校運営協議会の活性化 地域の教育力と学習罪の活用 地域を中心とした学校との共催事業への取組 ⑤「業務の効率化」 業務改善の意識の向上 健康管理とワークライフバランス
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	
---------------	--

(1)共通評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践。 ○学習内容の定着に向けた、分かりやすい授業の実践。 ○家庭学習の充実	○学習課題、一人一台タブレット端末の活用、UDを意識した授業づくりに取り組む職員100%。 ○該当学年の家庭学習の時間の目安を達成する児童80%。	・「授業づくりのステップ1・2・3」や視覚化ボード、一人一台タブレット端末を活用した授業実践。 ・毎月チェックカードを使って家庭学習の時間を振り返る機会を設ける。 基礎・基本の定着のため、復習の書を用意し家庭学習を促進する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○心を育てる教育に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が90%以上になる。 ○道徳教育や人権教育に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者が90%以上になる。	・一人ひとりを大切にする人権教室(年間3回)と「いじめ・命に関するアンケート(毎月)」を適切に実施する。 ・友達に暖かな言葉を書きあう「ハートタイム」を定期的(隔月)に実施する。 ・道徳科の授業づくりやエンカウンターに関する校内研修等を年会1回以上実施する。
	●◎いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていいると回答した教師が90%以上となる。 ○いじめのない学校づくりへの取組に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者が90%以上となる。	・全職員による生徒指導協議会を毎月実施し、いじめや不登校、気になる児童への対応をチームとして組織的に行う。 ・毎月の児童アンケート、年間1回以上の保護者アンケートを実施する。 ・児童と担任による個人面談を計画的に年間2回以上実施する。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒が90%以上になる。 ●◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒が75%以上になる。 ○Q-Uアンケートの分析結果を生かした学級経営を行っていると回答した職員が90%以上になる。	・2か月に1回の「ぼかぼかカード」(児童の良さ見つけカード)の取り組みで、良い行動の共有・称賛を図り、児童の自尊感情を高める。 ・年間を通じて、道徳等での自分の夢や希望について考える授業を積極的に行う。 ・学級活動や各種体験活動において、活動の見通しを自分たちで考えたり、実際の活動や振り返りなどを主体的に取り組みせたりして、自分の成長を児童自身が自覚できる活動を仕組む。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○食育や健康教育への取組に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が90%以上になる。 ○ゲームやテレビ、インターネットなど家庭で決めた時間を守れていることに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者が80%以上になる。	・学級活動において、栄養教諭による食育授業を実施し、「早寝、早起き、朝ご飯」の意識を高め、定期的に実践を振り返り、生活時間と食事のとり方の改善を行う。 ・給食において適量の配膳を行い、残量を減らす意識を高め習慣づけを行う。 ・毎月1日の「ノーテレビ・ノーゲームノースマホデー」を定着させ、自主的計画的に規則正しい生活を送る実践力を高める。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 (月45時間、年間360時間) ○職員の業務改善に対する意識や実行力を高めるための研修を年間に2回以上実施する。	・毎週金曜日の定時退勤日の確実な実施に努める。 ・退勤時刻の上限を設定し、退勤時刻までの時間を個人で効率的に活用する「タイムマネジメント」の意識化を図る。 ・様々な学校行事の統廃合やデータの整理及び有効活用を進めていくことで、実務的な業務改善を行っていく。
●特別支援教育の充実	○交流学級の支持的風土作り ○特別支援教育の啓発	○特別支援教育に関するアンケートにおいて、交流学級や校内における支持的風土作りが進んだと回答した教職員が90%以上になる。 ○特別支援学級の児童の学習の様子を保護者や地域の方が参観したり、参加したりする活動を毎学期に1回以上行う。	・発達障がい児の理解や自立活動に関する内容に関して研修会を行い、特別支援教育の充実につなげる。 ・障がい者への理解を深めるための人権集会を行い、特別支援教育に対する理解を求める。 ・学校だよりなどを通じて、特別支援教育に関することを保護者や地域へ発信し、特別支援教育に対する理解を求める。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○学校運営協議会の推進	○学校運営協議会で話し合いを十分に行い、活動内容や活動方法を工夫しながらコミュニティ活動の活性化を図る。	◎「諸富町が好きですか」等の調査で、肯定的な回答をした児童が80%以上。	・児童に学校運営協議会が開催する行事や地域で行われる行事への積極的な参加の呼びかけを行うとともに企画段階からの参画を促す。 ・地域の方と学習をすることで、地域の良さを知り、諸富町が好きになる児童の育成をめざす。
○読書活動の充実	○学力向上や豊かな心の育成のための読書週間の定着。	○「北っ子にじいる50選」を達成した児童が70%以上になる。 ○図書室での本の貸し出し年間100冊以上を達成した児童が90%以上になる。 ○毎日読書に取り組むことができた児童が90%以上にな	・家庭でも読書に取り組ませるために、週末に読書の宿題を出す。 ・読書ノートを活用し、本を読んだ感想等を紹介しあう機会を設ける。 ・学習のために図書室を利用したり、必要な本や辞典を教室に置いたりして、積極的に図書室を活用する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育